

発足37年 会員減り資金難

東京ビデオフェス存続危機



「東京ビデオフェスティバル2015」の上映発表会で作品について語る大林宣彦監督（左から3人目）と高畠勲さん（右から2人目）ら審査委員＝大田区で1月17日撮影（市民がつくるTVF提供）

ネットで寄付呼び掛け

国内外の市民が撮影した映像作品の祭典として37年続いた「東京ビデオフェスティバル」（TVF）が、資金難のため存続の危機に陥っている。このままでは来年度の開催が困難で、インターネット上で資金を集めるクラウドファンディングサイトを使い、映画監督らが寄付を呼びかけている。

運営事務局を務めるNPO・市民がつくるTVF（小林はくどう代表理事）によると、TVFは家庭用ビデオカメラが普及し始めた1978年に活動を開始。翌年、第1回フェスティバルを開催し、毎年、回を重ねてきた。これまでに集まった作品は、55カ国から約5万4000本に上り、ジ

ヤンルはドキュメンタリー、ドラマ、アニメーションなど多岐にわたる。審査委員も多彩で、過去には漫画家の故塙治虫さんが、現在は映画監督の高畠勲さんや大林宣彦さ

ト上で資金を集めるクラウドファンディングサイトを使い、映画監督らが寄付を呼びかけている。アーティスト、下村健一さんは「毎年、理事らが赤字を補填してきたが限界となつた。TVFの応募作品は歴史的資料としての価値も高いが、資金難で保管場所が確保できなければ散逸する恐れもある。多くの人に理解してもらつて存続させたい」と話す。

今回の目標額は25万円で、今月末まで寄付できる。1口3000円からのさまざまな特典もある。問い合わせは、TVFのウェブサイトか事務局（090-09950-2882）。

NPO理事の元TBSアナウンサー、下村健一さんは「毎年、理事らが赤字を補填してきたが限界となつた。TVFの応募作品は歴史的資料としての価値も高いが、資金難で保管場所が確保できなければ散逸する恐れもある。多くの人に理解してもらつて存続させたい」と話す。

今回の目標額は25万円で、今月末まで寄付できる。1口3000円からのさまざまな特典もある。問い合わせは、TVFのウェブサイトか事務局（090-09950-2882）。

んらが名を連ねている。しかし、第1回から主催していた音響会社が2009年を最後に撤退。代わって、審査委員らがNPOを設立し運営を引き継いだ。現在の主な資金源はNPOの会費などだが、高齢化のため会員は減少。常勤スタッフが無報酬で働くなどして開催にこぎ着けてきた。

「歴史価値高い作品が散逸も」

するためには必要な最低限の金額にあたり、クラウドファンディングサイト「READYFOR?」（<https://readyfor.jp/projects/tvf>）。

（吉永磨美）